

事業所
リレー
つうしん



this month
2月

ティふじ

能登半島地震をふまえ 予告なし防災訓練

「ヒューン・ヒューン・ヒューン」けたたましい音とともに「緊急事態発生！地震！地震！」の音が響き渡る。緊迫した時間が流れ、ご利用者様の表情が一瞬凍り付く。



ヘルメットとライフジャケットを装着していただき避難準備を開始、令和6年1月1日に発生した能登半島地震を踏まえ、新年の初日（1月4日）に、震度7の地震が起きたことを想定した防災訓練を予告なしに実施しました。

「地震が起きたらどうしますか？」の問いかけに「テーブルの下に隠れる」「お尻の下に敷いているクッションで頭を保護する」等、積極的な意見がでました。能登半島地震から5日経過した被災者の映像で「水が飲めることがうれしい…」と涙を流していたおじいさんの姿を忘れることができません。

睡眠・食事・排泄、当たり前に行っていたことが、当たり前で無いことの現実を目の当たりにし、他人事ではないことを常に意識し、これからも防災訓練を重ねていこうと思いを新たにしました。



定例理事会 1月23日（火）

12月度活動結果報告

夢コープ職員数	335名	実働数	328名
事業	活動時間数		
くらしの助け合い	2,129.00時間		
介護保険 訪問系サービス	4,607.50時間		
障害福祉サービス	1,825.25時間		

居宅介護支援	要介護	総合支援
	427名	191名

施設名	開所日	当月利用者数	利用者数/1日
どうその家	24日	21名	7.17名
夢コープふじ	24日	11名	5.67名
夢コープいた	15日	28名	7.00名

交通安全スローガン

深呼吸 焦る気持ちが 事故を呼ぶ

もしもに備えて！
『避難口』を複数確保しましょう。



訪問介護でヘルパーに入った時も同様です。

特定非営利活動法人ワーカーズコープ夢コープ

2024.2.1 No.360

夢コープニュース

2

〒420-0851 静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル6F
TEL (054) 275-1100/FAX (054) 275-1133
MAIL honbu@yumecoop.jp / URL http://www.yumecoop.jp/

昨年末にNHKで「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」というドラマが放送されました。視聴をきっかけに原作本（丸山正樹著）を読みました。主人公は、家族が聴覚障害者である中で、聞こえる子どもとして育った40代の男性。ストーリーは推理小説仕立てで、時間を忘れて読んでしまう魅力がありました。

作中の事件に関与する人物に聴覚障害者やその家族・関係者が登場します。ドラマでは省略や改変されている部分もあり、登場人物の心情や苦悩、その原因となる様々な環境が原作本では手に取るように伝わってきました。また、手話の種類や障害児に対する教育、彼らを取り巻く社会についてなど多くを知ることが出来ました。聴覚に障害がある人にとって

言語とは何かを考える機会にもなりました。

この本に限ったことではありませんが、読書は自分では体験していない（できない）ことを頭の中で体験させてくれます。人の気持ちを正しく理解することは難しいですが、頭の中の引き出しを多く持つことで想像の幅が広がります。ご利用者の気持ちを理解しよう、寄り添おうとする私たちの仕事の糧になると思っています。読書の価値はいろいろとありそうです。

理事長 杉井 初世



認知症の「なぜ？」 「どうして？」新シリーズ



事例8. 突然、箸が使えなくなったご利用者が食事ができるようになった方法は？

対応のポイント

運動機能に問題がなくても道具の使い方や食事の仕方など身につけたはずの動作がうまくできなくなる症状を「失行」と言います。

目の前で実際に食器を使ってみせます。言葉の理解が苦手になっている人とのコミュニケーションでは、身振り手振りを活用すると伝わりやすくなります。伝え方を工夫してその人に残った能力を奪わないよう配慮することが大切です。

第2回ミーティングを開催します
「目指せ！チーム夢コープ」
～仕事のつながり・仲間のつながりを深めよう～



第2回ミーティングでは、「チーム夢コープ」を目指し、仲間同士の情報共有、事業所全体の横のつながりを強くして、より一層夢コープらしい働きやすい職場を作るために何を行っていきけるかを考えます。

【話し合ってみましょう！】

例えば…

- ・みんな、仲間！仲間とどんな「時間」や「つながり」がほしいですか？
- ・事業所の皆の力をより活かすにはどうしたらいいと思いますか？

年1～2回集まる場やお楽しみ会？
ヘルパーのみで行うミニカンファレンスははどうでしょう？
担当者以外、他の職種のスタッフと話をしてみませんか？

皆の知恵と協力で、悩みを減らし、仕事を楽しく、なるべく多くの人々が前より仕事がしやすくなったな、前より安心だなと思える関係を作りましょう。

【現状は】

新型コロナウイルス感染症の広がりもあって、積極的に会う時間を以前のように設けることはできていません。
ヘルパー不足の今、スタッフは事業所に居たくても不在になってしまう事も多く、中には、事業所でスタッフに話したかったけれど伝えられなかった人もいます。

【考えてみましょう】

1人のご利用者には様々な職種の人（ケアマネ、サービス関係者、医療関係者、地域の人など）がかかわっています。夢コープの中にも、ヘルパー、ケアマネ、通所職員などいろいろな役割の人たちがいます。様々な職種の一人ひとりがチームとしてまとまるからこそ、それぞれの力を発揮し、ご利用者を支える事ができます。

直接仕事とは関係なくても夢コープの仲間としてちょっとした悩みを相談できる関係性も大切。たわいもないことを話したり、悩みを聞いてくれたり、嬉しい時には一緒に喜んでくれる仲間づくりができてほしいな。

第1回ミーティングでは

第1回ミーティングは昨年8月から11月にかけて各事業所で行われました。出席者は238名、

事業所からは、「久しぶりに会った皆がとても楽しそうだった」「和気あいあい、皆と話すことで前向きで明るく元気な気持ちになった」「普段意識していない魅力を再確認できた」仕事に関する意見も聞かれた等の報告がありました。

出席者からは、「今回のような接点をもっと欲しい」「ふれあいの場が必要」「もっとカンファレンスをして欲しい」などという声がありました。